

< 巻頭言 >

『研究年報』第20号の発刊に寄せて

大原大学院大学学長 石 山 卓 磨

大原大学院大学は、大原学園が抱える学校法人の一つであり、遠源をたどれば69年前の1957年に大原簿記学校が誕生したことに始まります。これが1979年の大原学園の創設につながり、2006年に大原大学院大学が開学されました。開学当初の入学者はわずか20名でしたが、今や1学年の修了生は80名になんなんとしており、全国津々浦々において大原出身の公認会計士や税理士その他の職業会計人の活躍を見ることが出来ます。

本学の入学受入方針（アドミッション・ポリシー）は、会計の公正性を確保できる高度な知識と技能そして高い倫理観と国際感覚を備えた高度な会計専門職業人として活躍することを目指す人材の受け入れです。そのために簿記の学力程度や保有資格など志願者の特性に応じた各種の方法で入試を実施してきました。

本学は昼夜開講制でして、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような職種につこうとも、高度会計専門職業人の素養として最重要とされる会計職業倫理を必須科目とし、高度会計専門職業人としての知識・技能を備えるために必要と考えられる5つの系（すなわち（1）財務会計系、（2）管理会計系、（3）監査系、（4）法律系、（5）租税法系）を選択必修科目としています。そして各教科には、研究者教員と実務家教員が配置されており、日夜力を合わせて学生達の学習や研究に役立つよう、創意と工夫をこらした授業を展開してきています。

本学の研究紀要である『研究年報』は、毎年1回、本学専任教員の多数が執筆した研究成果を掲載して、今回第20号に及んでいます。その執筆内容は、純粹に学界を意識して己の思索を世に問おうとしているものや、実務上の経験から生まれた問題意識から己の信ずるところを確認しようとするもの、あるいは、限られた授業時間内では扱いきれない複雑な講義内容を平易かつ詳細に論述して、受講生諸君の参考に供しようとするものまで多種多様です。しかし本学の教員達が本学のたゆまぬ向上に貢献するべく努力している姿勢を本学内外の多くの関係者各位に知っていただきたいという思いは共通でして、毎年、春に、学生諸君に配布するとともに、全国の会計大学院はじめ各種の研究機関等に送付させていただき、その評価をあおいでおります。

会計大学院設立の趣旨は、高度な専門的知識を供えた将来の職業的会計人を世に輩出することですが、大学院の授業に参加する過程で、熱意ある教授陣の指導の下、純粹に学問を探究する面白さに目覚めて研究者を目指し始める人材も出ないとも限りません。『研究年報』がそのような学生にとって1つの刺激となること、これも刊行目的に含まれています。

このように『研究年報』は本学専任教員それぞれの思いを内に秘めて刊行されているものでして、読者の皆さんにその熱意が伝われば幸甚です。大原大学院大学は、次の20年に向けて前進いたします。その足跡を世に示す証として、執筆者一同より充実した内容の『研究年報』の刊行に向け鋭意努力を継続したいと思っております。